

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370900532
法人名	特定非営利活動法人ケアセンターいこい
事業所名	認知症高齢者グループホーム いこいの宿
所在地	岩手県一関市末広一丁目9-13 (電話) 0191-23-5258

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	3月10日

【情報提供票より】平成20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 1月 5日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造二階建 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	食費込 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	- 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤胃腸科内科
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

一関市内を流れる磐井川堤防の桜並木が見える市街住宅地にあり、利用者一人ひとりが自立した生活を営み、人間として尊厳をもって生活していけるよう地域との関わりを大切にしながら、法人が運営しているデイサービス、ボランティア事業や地域医療機関との連携を図り、終末期までサービス提供をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	協力医療機関で健康診断を実施し改善に取り組んだ。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所の課題については、毎月の職員定例会で話し合い、その結果を法人のリーダー会議に提起して改善に取り組んでいる。外部評価は居間の見やすいところに備えて、職員、利用者、来訪者が常に見られるようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催している。行政・利用者・利用者の家族・地域の代表者、サービス提供者で構成され、議題についても目的をもって開催し記録も整理されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に御意見箱を設置し家族からの意見・苦情を受け入れる体制が取られているが、実績はない。また、面会時や運営推進会議でも自由に意見が話せるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者一人ひとりが地域の一員として暮らせるよう、地域の運動会、敬老会等に参加している。グループホームのお花見会には保育園児を招いて実施し、地域の人々との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一関市内を流れる磐井川の堤防に面した住宅地にあり、利用者一人ひとりが自立した生活を営むことができるよう地域活動に積極的に参加しながら支援が行なわれている。運営推進会議の中で民区長を通じ地域の行事に協力し参加しており、年2回(お花見、芋煮会)実施している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	茶の間、各居室に掲示している。月1回の定例会で確認合っている。職員が理念を共有しながら利用者の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民区の運動会、敬老会、同法人のデイサービスの敬老会に参加している。グループホームのお花見に保育園児を招待して交流し、地域の祭りでは子供みこしの駐車場として提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月開催している学習会の場で職員全員で取り組んでいる。各事業所のリーダーが集う会議で改善点を協議している。朝、夕のミーティングノートでも改善点を記載し取り組んでいる。外部評価は居間の見やすいところに備えて、職員、利用者、来訪者が常に見れるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。行政、地域代表者、利用者、利用者の家族、サービス提供者で構成し、自由に協議できる。議事録は職員全員で回覧し情報を共有し、出された意見等は利用者のサービス提供等に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>年1回介護相談員が訪問している。支援困難なケースなどには市から情報提供や指導・助言を受けて対応するなど市との連携に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に日常生活状況を説明している。年3～4回発行のお便りでもお知らせしている、金銭管理の状況について面会時に開示し確認印も頂いている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族の参加を得て、家族の質疑、意見を事業所の運営やサービス提供に反映させている。また、ご意見箱の設置や苦情相談職員を配置して意見・苦情を受け入れる体制をとっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>面会時に異動した職員を紹介している。家族の介護のため退職した職員がこの一年間で一人いた。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で全職員を対象にした研修会を定期的開催するほか、外部の研修に職員を派遣して育成に努めている。研修に参加できなかった職員には、職員定例会等において研修内容を伝達している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。ホームヘルパー実践研修や専門学校の学生の実習を受け入れている。県全体、県南グループホーム協議会研修へも交代で出席している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があったときは生活歴、現症記録等を検討するほか、利用申込者は事前に見学し、職員と利用者との対話を通じながら納得のうえ利用開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理で可能な事は手伝ってもらっている。食後の片付、洗濯物の整理、行事の時の助言、野菜造りなど利用者から学ぶ事が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物、行事等に本人の希望や意見を取り入れ生活している。日々の生活の中で声がけをして、利用者一人ひとりの希望を聞き、状態に変化があれば職員全員でケース検討会を開催している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に意見・要望を常に聴取し、職員全員で情報を共有している。利用者、家族との話し合いや、毎月の職員定例会で利用者の課題を検討し、本人の立場にたって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者毎の担当職員を決め、支援記録等により本人の状況を把握しながら、3ヶ月に1回介護計画を見直すため利用者家族からの意見・要望も聴取し、介護計画を(見直し)検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のデイサービス、福祉有償移送サービスを活用し、利用者を支援している。屋外行事にデイサービスのリフト付ワゴン車を活用し屋外での地域との交流を図ることも有り、本人、家族の要望に応じ各事業所の機能を活かして柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を尊重している。家族の意向で協力医療機関を利用することもある。ほとんどの利用者は職員の送迎支援により受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	市の緩和ケア体制の会員となっていることから終末期サービスを支援する仕組みが出来ている。法人本部に24時間体制で職員が配置されているので臨機応変に対応出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの場でプライバシーを損なわないよう常に心がけるように協議している。契約書に守秘義務の記述があり、個人情報の取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活は計画に基づき行なわれているが、運営方針である一人ひとりが自立した生活を営むよう食事、入浴、外出等利用者の希望を可能な限り取り入れて支援している。習字、野菜造り、買物など個別の好きなことも大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態によりキザミ食や、軟らかい食事としている。献立を策定する時に利用者の希望を取り入れ、買物にも一緒に行ってもらっている。嗜好が違う時は代替食を提供し食事を楽しむための支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月、水、金、土曜日で利用者を2組に分け、週2回利用者の状況や、本人の希望に沿って入浴している。バイタルチェック表でチェックし本部の看護師の助言を得ながら健康に配慮し、入浴を実施している。希望により週2回以上入浴している方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	創作活動(干支の絵造り)、菜園、書道、クリスマスのリース造り、行事の楽しみ(お花見、芋煮会、敬老会、お正月など)などで活躍して頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩、買物、親類の家へ遊びに行くなど自由で希望があれば戸外に出かけることができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない。夜は、警備会社と契約し外部からの進入に対する防犯体制を取っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している。職員の連絡系統図は掲示されており、地域消防署の協力を得て防災訓練、避難訓練を実施している。	○	日中の避難訓練は行なわれているが、夜間の避難訓練を地域の方々と消防署の協力で実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアマネジャーの職員が栄養士の資格を有しており献立票を作成している。水分はチェック表でチェック、残食状況はケース記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	市内住宅地の静かな場所で、共用の玄関、廊下、台所と一体の居間にはコタツやソファもあり、明るく居心地よく、共用空間は良好である。重度化が進んで車いす利用者が多くなってくると狭く感じてくることもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく使い慣れた家具等を持ち込み、利用者は居心地よく過ごしている。昼食後は各居室で昼寝したりして、それぞれ自由な生活をしている。位牌、遺影持参の方もいる。		